資料3

刈谷市の外国人市民の状況

１．外国人市民の居住状況と特徴

① 国籍と人数 P.2

◇58 ヶ国、5,141 人の外国籍市民が在住。うちアジアからが約 80％を占める。
◇フィリピン、ベトナム、ブラジル、中国の順で多い。

② 経年変化 P.3

◇現計画策定後 11 年間で 1.35 倍に増加。外国人市民比率は 2.41％から 3.36％まで増加。
◇増加が著しいのはベトナム人。11 年間で 8.58 倍に増加。

③ 県内、全国との比較 P.4

◇外国人市民比率 3.31％は、全国平均 2.19％より高く、愛知県平均 3.53％よりやや低い。
◇県内 57 市町村の中で 13 番目に外国人が多い都市で、「フィリピン人比率 24.7％が高い」「フィリピン、ベトナム、ブラジル、中国の 4 ヶ国で約 8 割を占める」ことが特徴。

④ 居住特性 P.5-6

◇中学校区別外国人市民比率は 2.6～4.3％の範囲で、市内各地に散在して居住。
◇その中でも北部、南部に比較的多く居住し、小垣江町 606 人、一ツ木町 445 人、野田町 340 人、築地町 335 人、井ケ谷町 196 人が上位 5 町。

⑤ 年齢分布 P.7-8

◇5 歳階級でみると、25～29 歳 816 人をピークに山なりに分布。比較的若い生産年齢層が多い。
◇0～14 歳の子どもは 5 年間で 123 人（23％）増、ベトナム人の子どもの増加が 62 人と著しい。
◇65 歳以上の高齢者は 64 人（52％）増、ブラジル人、フィリピン人の高齢化が進む見込み。

２．外国人市民の在留目的とその影響

① 在留資格の状況 P.9-10

◇比較的永住傾向が強い永住者、定住者、日本人･永住者の配偶者等で、全体の 57％を占めている。
◇上記在留資格は、ブラジルが 100％、フィリピンが 90％。
◇増加が著しいベトナムは、技能実習 36％、技術･人文知識･国際業務 29％。

② 在留資格の経年変化 P.10-11

◇11 年間で永住者が 448 人増、うちフィリピン、中国で 91％を占める。
◇技能実習 421 人増、技術･人文知識･国際業務 258 人増、共にベトナムによる寄与度が高い。

③ 同居する子ども P.12

◇幼年期 336 人、小学期 241 人、中学期 104 人、高校期 98 人。全期通してフィリピンが多い。

④ 市立学校に通う児童・生徒数 P.12-13

◇375 人、9 年間で 114 人増。かりがね小 70 人で最多、東刈谷小 48 人、朝日小 35 人。
◇語学指導が必要な割合は 52％。フィリピン、ブラジル、ペルーで必要度が高い。

⑤ 生活相談の状況 P.14

◇約 7,000 件の生活相談。住民登録 20％、税金 19％、福祉 15％。過年度より医療、労働が増加。

1 外国人市民の居住状況と特徴

① 国籍と人数

【図1：わかること・いえること】

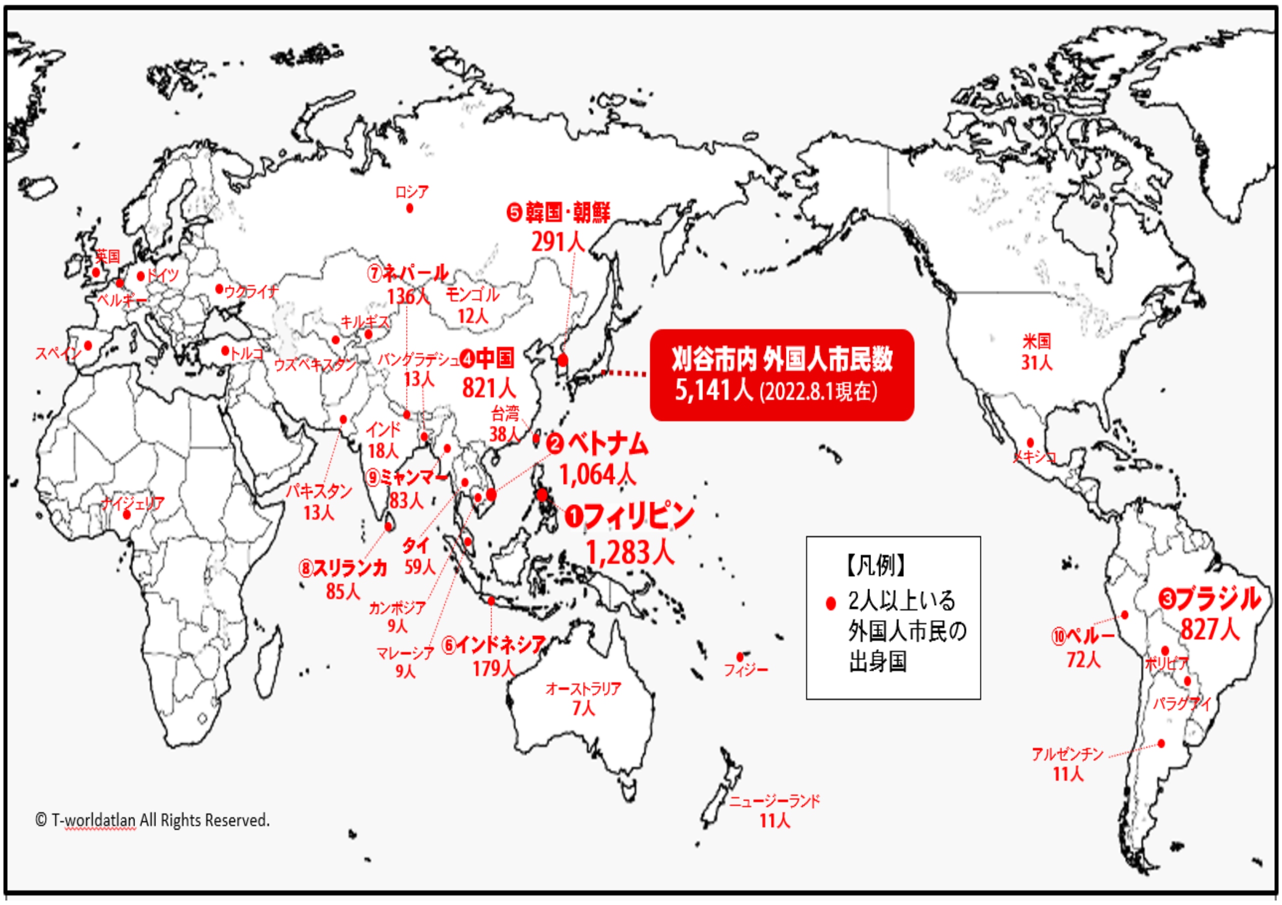
◇ 本市には 58 カ国から 5,141 人の外国人市民が在住している。
（2022 年 8 月 1 日現在、1 人のみの国を除くと 36 ヶ国、5,119 人である。）

◇ 国籍の上位 10 位は、以下の順となっている。

① フィリピン	1,283 人	⑥ インドネシア	179 人
② ベトナム	1,064 人	⑦ ネパール	136 人
③ ブラジル	827 人	⑧ スリランカ	85 人
④ 中国	821 人	⑨ ミャンマー	83 人
⑤ 韓国・朝鮮	291 人	⑩ ペルー	72 人

◇ 出身国の大陸ではアジアからが、17 カ国、4,117 人、約 80％を占めている。
（1 人のみの国を除く。）

図1：本市在住の外国人市民の国籍と人数



© T-worldatlan All Rights Reserved.

② 経年変化

【図2：わかること・いえること】

＜外国人市民人口全体＞※面グラフ

◇ 現計画策定（2011 年度）以降、増えてきている（11 年間で 1.35 倍）。

◇ 新型コロナ禍の影響で、2019～2021 年度にかけて、やや減少した。

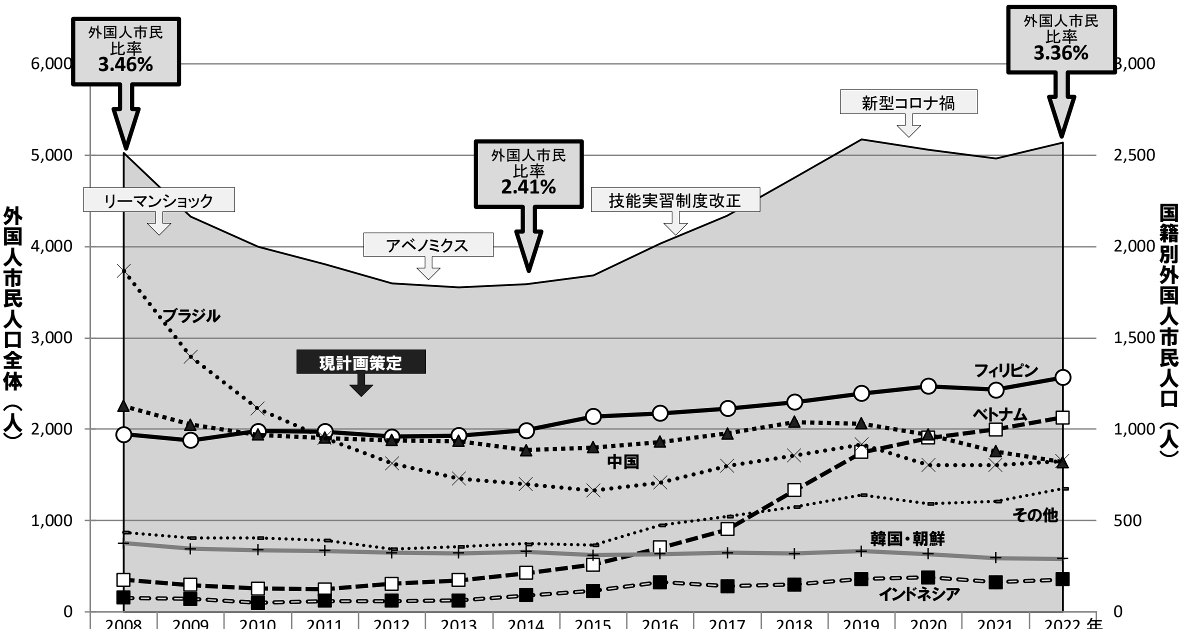
◇ 外国人市民比率は 2008 年度をピークに一旦は減少したが、2014 年度を底に再び増加し、2022 年度にはピーク時の比率に迫っている。

＜国籍別＞※折れ線グラフ

◇ 2022 年度現在、最も多いのは、フィリピン人（1,283 人）で、現計画策定後一貫して最多を維持している。ベトナム人（1,064 人）は、2021 年度から第 2 位になり、次いで、ブラジル人（827 人）、中国人（821 人）などとなっている。

◇ 増加が著しいのは、ベトナム人で、11 年間で 8.58 倍となっている。次いで、インドネシア人（2.98 倍）、その他（1.70 倍）、フィリピン人（1.30 倍）である。一方、減少したのは中国人（0.86 倍）、ブラジル人（0.87 倍）、韓国・朝鮮人（0.88 倍）である。

図2：本市の主要国籍別の外国人市民人口の推移



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 年
全数	5,028	4,328	3,996	3,804	3,596	3,551	3,588	3,686	4,036	4,335	4,757	5,176	5,063	4,961	5,141
フィリピン	973	940	990	988	960	966	994	1,071	1,089	1,114	1,149	1,196	1,237	1,217	1,283
ベトナム	175	148	129	124	154	174	213	259	352	453	665	874	953	998	1,064
中国	1,127	1,024	971	952	940	936	886	900	931	977	1,041	1,031	971	880	821
ブラジル	1,865	1,394	1,113	951	812	732	701	664	708	801	857	919	803	804	827
韓国・朝鮮	376	345	339	335	325	322	330	311	318	324	320	333	318	295	291
インドネシア	78	71	50	60	61	62	91	114	163	142	149	181	189	163	179
その他	434	406	404	394	344	359	373	367	475	524	576	642	592	604	676

各年 10 月 1 日現在（2022 年は 8 月 1 日現在）、刈谷市調べ

③ 県内、全国との比較

【表1・表2：わかること・いえること】

◇ 本市の外国人市民比率 3.31％で、全国平均より高く、愛知県平均よりやや低い。

◇ 県内 57 市町村の中で、13 番目に外国人が多い都市である。

◇ フィリピン人が 24.7％と 1/4 を占め、次いでベトナム人 19.9％、ブラジル人と中国人が 17.1％となっており、この 4 カ国で 78.8％を占め、愛知県 70.4％、全国 59.1％と比べて割合が高い。

◇ 愛知県ではブラジル人、全国では中国人が、それぞれ最多比率となっていることに対して、本市はフィリピン人が最多比率で、県内でもフィリピン人比率が高い都市の一つとなっている（第 6 位）。

表1：本市の主要国籍別外国人市民人口と愛知県・全国との比較

国籍	刈谷市 外国人市民人口	刈谷市 外国人市民比率		愛知県 外国人比率		全国 外国人比率	
フィリピン	1,253 人	**24.7％**	①	14.8％	④	10.0％	④
ベトナム	1,011 人	**19.9％**	②	16.6％	③	15.7％	②
ブラジル	868 人	**17.1％**	③	**22.4％**	①	7.4％	⑤
中　国	864 人	**17.1％**	④	16.6％	②	**26.0％**	①
韓国・朝鮮	279 人	5.5％	⑤	10.4％	⑤	14.8％	③
その他	799 人	15.7％		19.2％		26.1％	
合　計	5,074 人			約 26.5 万人		約 276 万人	
総人口比	3.31％			3.53％		2.19％	

注：2021 年 12 月末　在留外国人統計、法務省調べ。各比率は各総人口に対するもの。

表2：県内の外国人市民及びフィリピン人が多い上位3都市と本市の順位

順位	外国人総数		外国人比率		フィリピン人数		フィリピン人構成比	
1位	名古屋市	80,555 人	高浜市	8.89％	名古屋市	9,455 人	蒲郡市	46.9％
2位	豊橋市	18,929 人	碧南市	7.95％	豊橋市	4,019 人	豊山町	36.6％
3位	豊田市	17,941 人	飛島村	7.55％	豊田市	2,073 人	設楽町	26.5％
刈谷市	**13 位**	5,074 人	**21 位**	3.31％	**11 位**	1,253 人	**6 位**	24.7％

注：2021 年 12 月末　在留外国統計、法務省調べ。各比率は総人口に対するもの。

④ー1 居住特性（外国人市民が多い町）

【表3：わかること・いえること】

◇ 外国人市民が多い上位 3 町は、小垣江町 606 人、一ツ木町 445 人、野田町 340 人。

◇ 小垣江町は、2010 年時点では 3 位であったが、11 年間で倍増し 1 位となった。

◇ 小垣江町ではベトナム人が 221 人と 1/3 を占め、急増の一因となっている。

◇ 11 年間で 50 人以上外国人市民が増えた町は、小垣江町のほか、一ツ木町、築地町、恩田町、泉田町、荒井町、高津波町である。

◇ 野田町には、ブラジル人が 102 人と比較的多く在住している。

◇ 外国人比率が高い上位 3 町は、新田町 10.5%、荒井町 8.8%、一里山町 7.8%。

表3：本市の外国人市民が多い上位20町

順位	中学校区	町名	町全体人口	外国人人口	2010年からの増加	外国人比率	フィリピン	ベトナム	ブラジル	中国	その他
1	依佐美	小垣江町	13,414	606	308	4.7%	172	221	70	60	83
2	雁が音	一ツ木町	10,965	445	△66	4.2%	133	75	78	52	107
3	朝日	野田町	10,200	340	36	3.4%	86	49	102	38	65
4	雁が音	築地町	6,113	335	114	5.8%	137	49	49	44	56
5	富士松	井ケ谷町	5,916	195	47	3.4%	21	52	24	43	55
6	雁が音	恩田町	2,914	179	70	6.5%	49	44	29	29	28
7	富士松	東境町	7,520	154	31	2.1%	41	29	37	31	16
8	雁が音	泉田町	5,700	138	55	2.5%	35	22	43	9	29
9	朝日	板倉町	3,332	135	10	4.2%	36	14	33	29	23
10	富士松	今川町	4,674	127	36	2.8%	23	21	16	36	31
11	富士松	一里山町	1,685	114	12	7.3%	11	40	5	18	40
12	朝日	東刈谷町	3,423	108	10	3.3%	37	10	21	16	24
13	朝日	末広町	2,386	97	24	4.2%	18	28	10	23	18
14	富士松	今岡町	2,045	94	48	4.8%	12	12	27	33	10
15	刈谷東	神明町	1,927	83	18	4.5%	24	13	4	21	21
16	依佐美	荒井町	1,019	82	51	8.8%	32	32	7	2	9
17	刈谷東	高津波町	2,351	81	54	3.6%	18	49	4	3	7
18	依佐美	半城土中町	3,345	76	27	2.3%	10	9	12	19	26
19	刈谷南	若松町	1,211	61	21	5.3%	6	5	3	20	27
20	雁が音	新田町	632	60	0	10.5%	17	3	22	3	15

（2021 年 10 月 1 日現在、刈谷市調べ）

④－2 居住特性（中学校区別）

【図4：わかること・いえること】

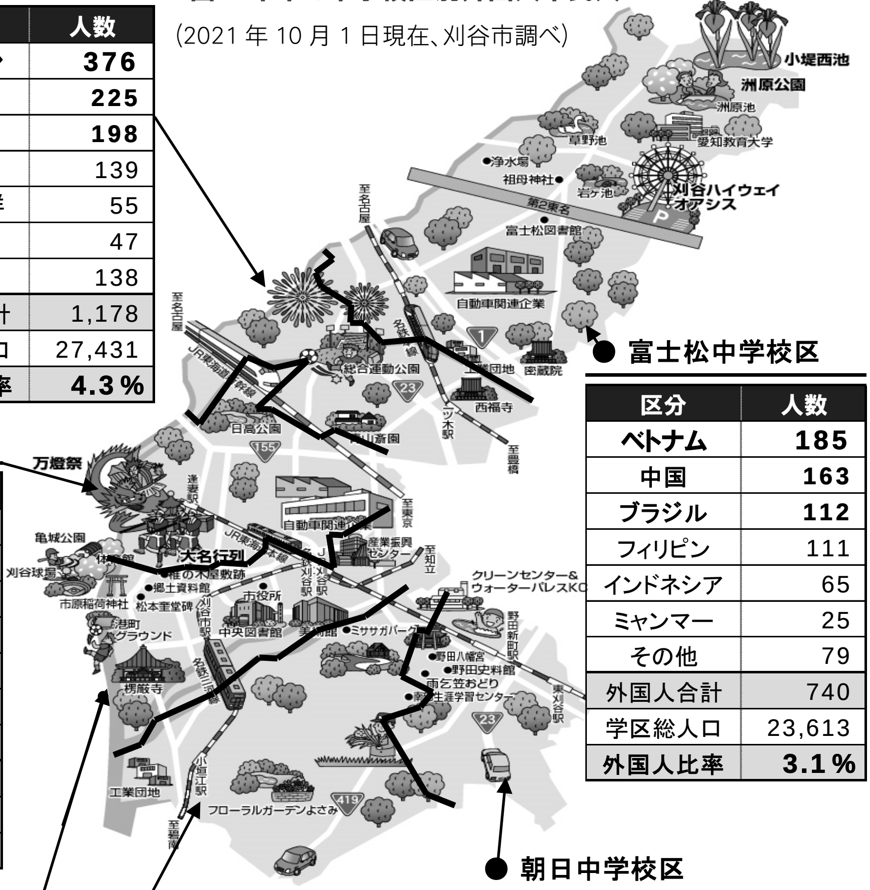
◇ 中学校区別の外国人市民比率は 2.6％から 4.3％の範囲に収まっており、比較的散在して居住しているといえる。

◇ その中でも、中部地区はやや外国人比率は低く、北部地区、南部地区で高い。

◇ 中学校区によって最多国籍が異なっている。雁が音、朝日はフィリピン人が最多、富士松、依佐美はベトナム人が最多、刈谷東、刈谷南は中国人が最多である。

図4：本市の中学校区別外国人市民人口

（2021 年 10 月 1 日現在、刈谷市調べ）



● 雁が音中学校区

区分	人数
フィリピン	**376**
ブラジル	**225**
ベトナム	**198**
中国	139
韓国・朝鮮	55
スリランカ	47
その他	138
外国人合計	1,178
学区総人口	27,431
外国人比率	**4.3％**

● 富士松中学校区

区分	人数
ベトナム	**185**
中国	**163**
ブラジル	**112**
フィリピン	111
インドネシア	65
ミャンマー	25
その他	79
外国人合計	740
学区総人口	23,613
外国人比率	**3.1％**

● 刈谷東中学校区

区分	人数
中国	**156**
フィリピン	**143**
ベトナム	**136**
ブラジル	67
韓国・朝鮮	56
ネパール	21
その他	85
外国人合計	664
学区総人口	25,658
外国人比率	**2.6％**

● 朝日中学校区

区分	人数
フィリピン	**202**
ブラジル	**196**
ベトナム	**132**
中国	126
韓国・朝鮮	50
ペルー	27
その他	79
外国人合計	812
学区総人口	24,944
外国人比率	**3.3％**

● 刈谷南中学校区

区分	人数
中国	**189**
フィリピン	**155**
ブラジル	**89**
ベトナム	80
韓国・朝鮮	59
ネパール	23
その他	114
外国人合計	709
学区総人口	26,358
外国人比率	**2.7％**

● 依佐美中学校区

区分	人数
ベトナム	**269**
フィリピン	**230**
ブラジル	**115**
中国	107
インドネシア	35
韓国・朝鮮	35
その他	67
外国人合計	858
学区総人口	24,612
外国人比率	**3.5％**

⑤ 年齢分布

【図5・図6:わかること・いえること】

＜外国人市民全体＞※図 5

◇ 外国人市民の年齢階級は、25～29 歳 816 人をピークに上下に山なりに分布しており、生産年齢のうち比較的若い層が多い。

◇ 65 歳以上の高齢者は、5 年間で 64 人（52%）増加している。

◇ 0～14 歳の子どもは、5 年間で 123 人（23%）増加している。

＜国籍別＞※図 6

◇ ブラジル人とフィリピン人は高齢者及び高齢者予備軍（50～64 歳）の割合が高い。

◇ ベトナム人は 20～34 歳で大半を占め、子どもの増加（62 人、188％増）が著しい。

図5:外国人市民の年齢構成、5年間の変化

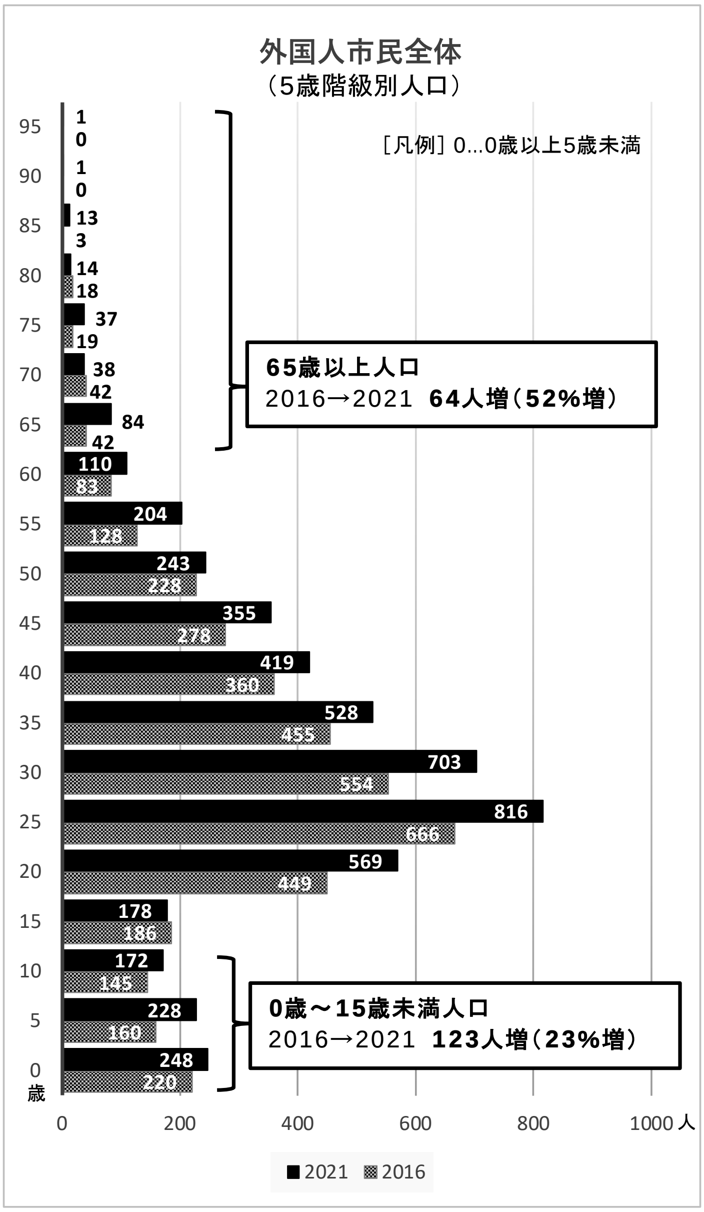
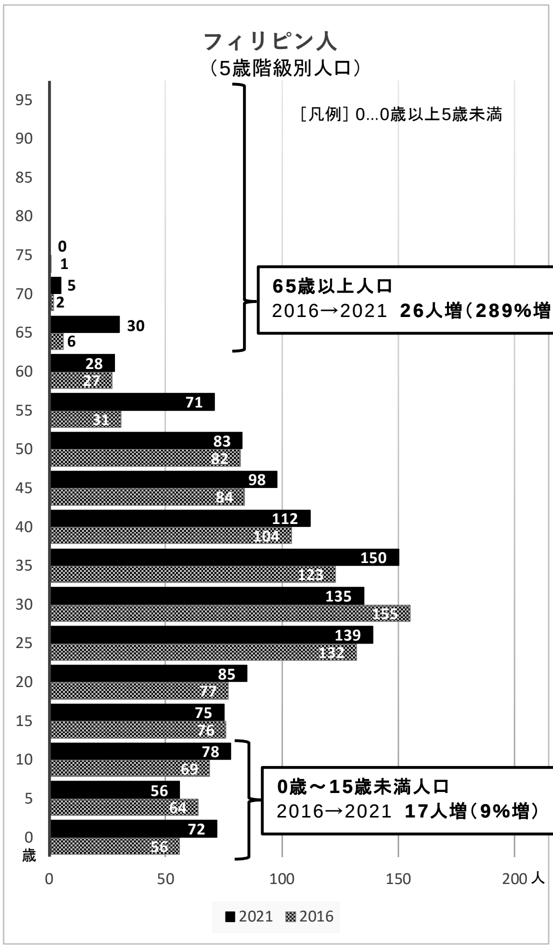
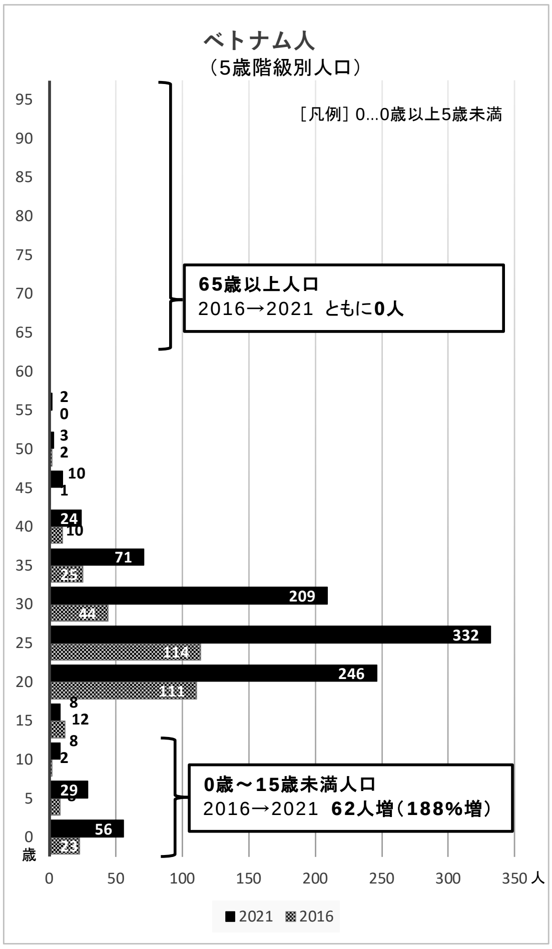
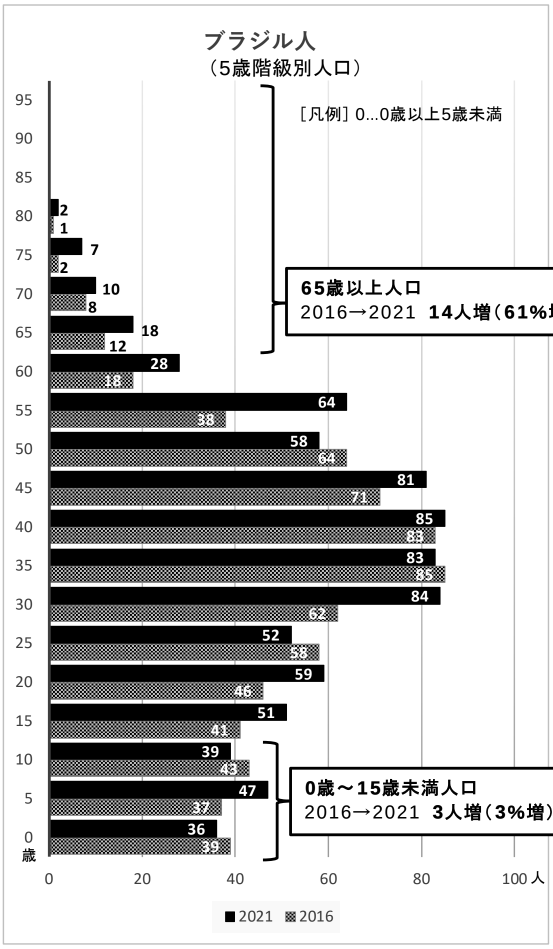
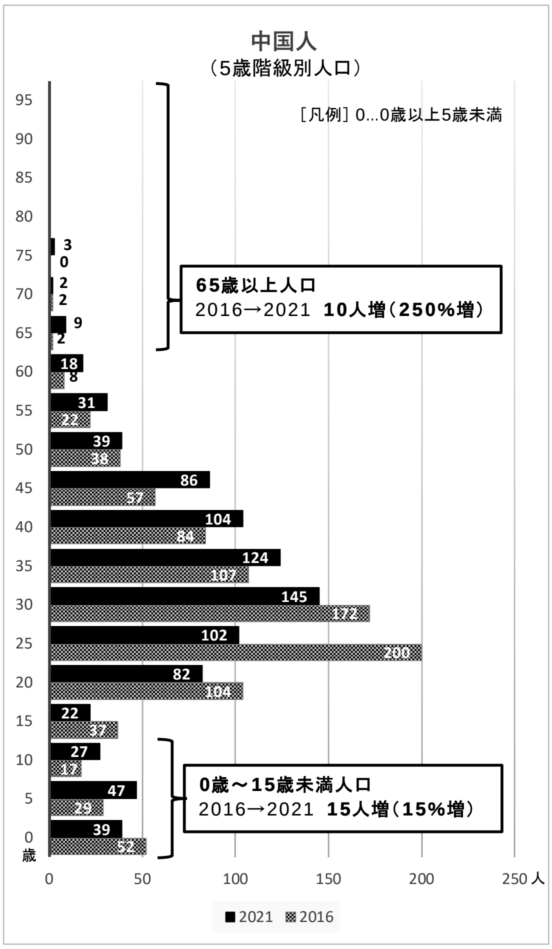


図6：主要国籍別 外国人市民の年齢構成、5年間の変化









2 外国人市民の在留目的とその影響

① 在留資格の状況

【図7・図8:わかること・いえること】

＜外国人市民全体＞※図７

◇ 在留資格のうち比較的永住傾向が強い永住者、定住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等で、全体の 57%を占めている。

＜国籍別＞※図８

◇ 上記の永住傾向が強い在留資格の割合が高い国籍は、ブラジル 100%、フィリピン 90%、中国 53%である。

◇ ベトナムは、技能実習 356 人（36%）と技術・人文知識・国際業務 285 人（29%）の割合が高い。このうち技術・人文知識・国際業務の在留資格は更新することで長く在住することも可能であり、家族滞在と合わせて、家族で永住に近い状況になることも想定される。

図7:外国人市民の在留資格の内訳　(2021 年.10 月 1 日現在、刈谷市調べ)

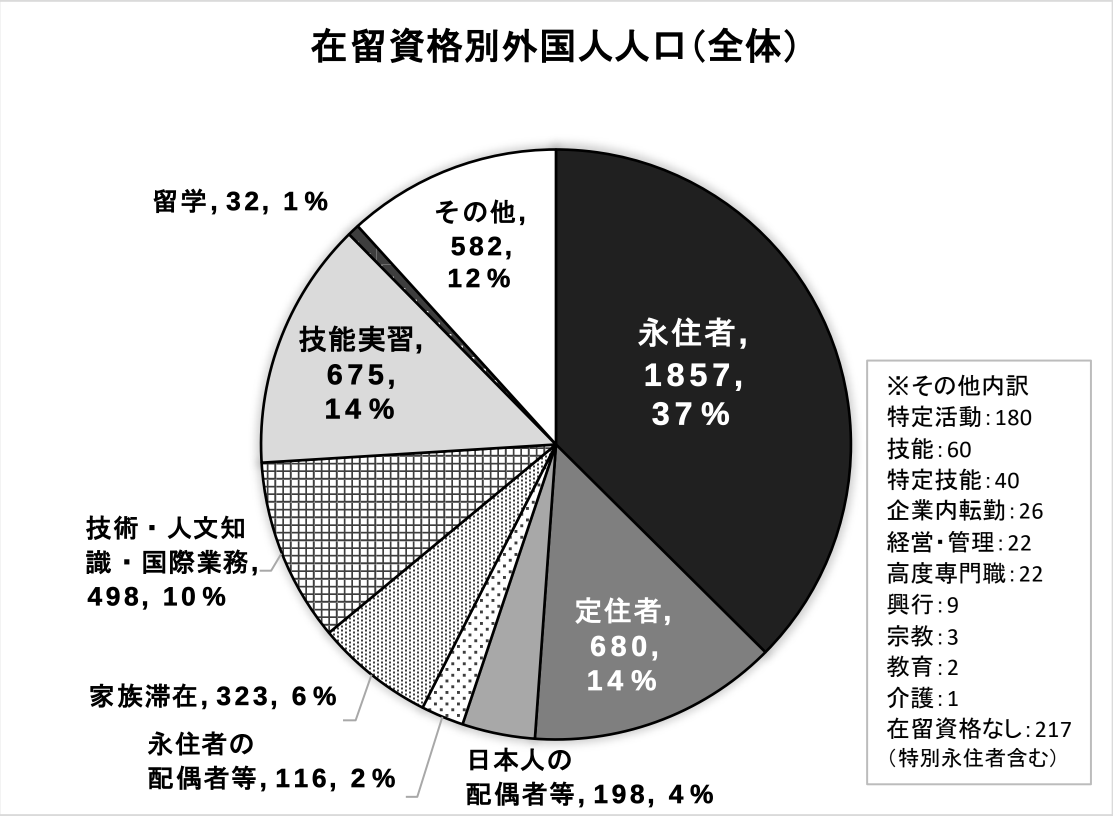
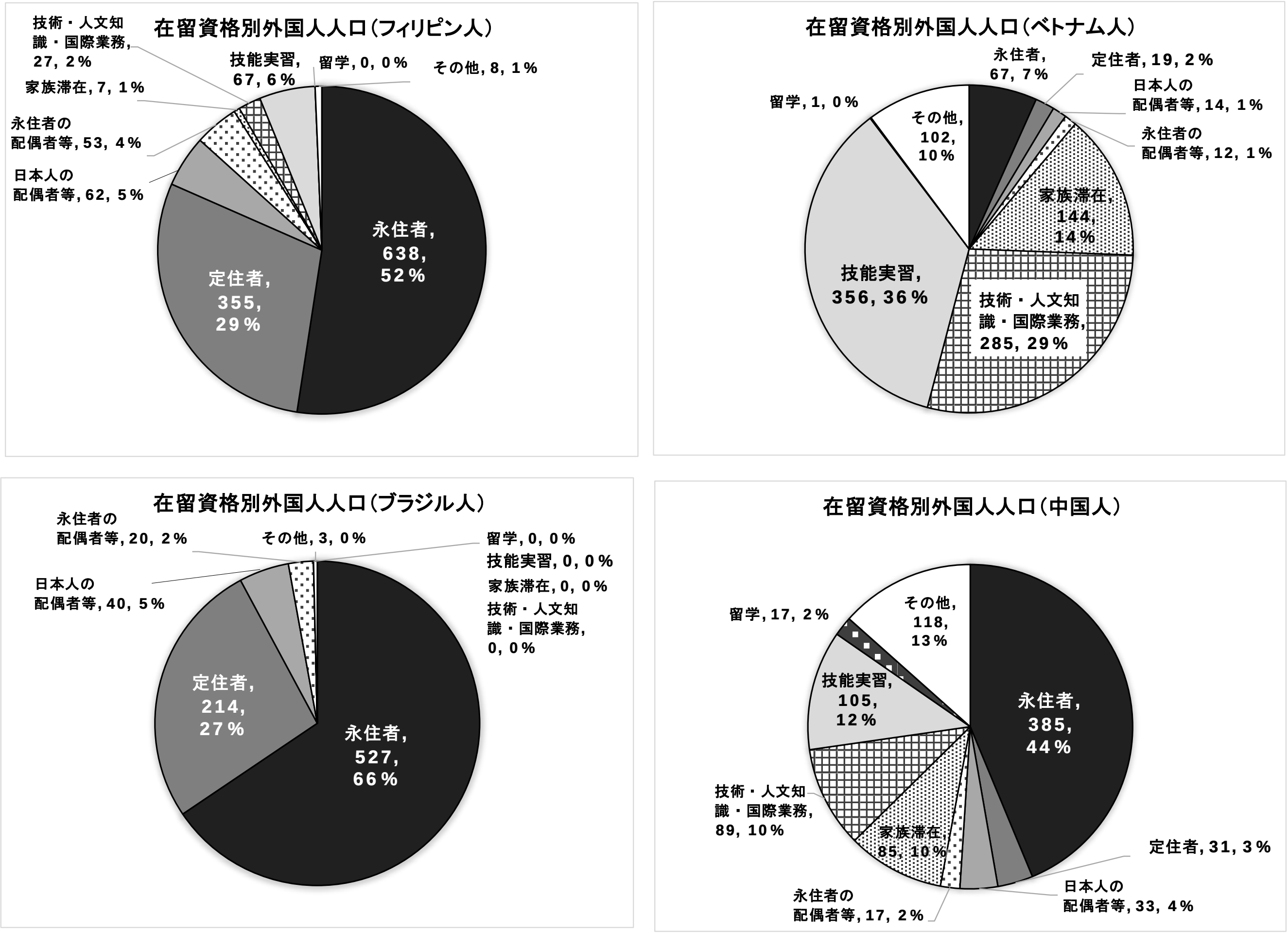


図8:主要国籍別の外国人市民の在留資格の状況



② 在留資格の経年変化

【表4:わかること・いえること】

◇ 11 年間と比べ、永住者が 448 人増え、増加分のうちフィリピン、中国による増加が 407 人(91%)を占めている。

・永住者人口　2010 年:1,409 人→2021 年:1,857 人(448 人増)
　うちフィリピン人　2010 年: 442 人→2021 年: 638 人(196 人増)
　うち中国人　2010 年: 174 人→2021 年: 385 人(211 人増)

◇ その他増えている在留資格は、技能実習 421 人増、技術・人文知識・国際業務 258 人で、共にベトナム人による寄与度が高い。

表4：主要国籍別の外国人市民の在留資格の推移

●2010年

上段：人数 下段：割合	永住者	定住者	日本人の配偶者等	永住者の配偶者等	家族滞在	技術・人文知識・国際業務	技能実習	留学	その他	合計
全体	1,409	594	341	42	195	240	254	76	771	3,922
	34%	14%	8%	1%	5%	6%	6%	2%	19%	95%
フィリピン	442	210	115	26	4	19	72	-	100	988
	41%	19%	11%	2%	0%	2%	7%	0%	9%	100%
ブラジル	631	325	104	6	1	-	-	-	13	1,080
	87%	45%	14%	1%	0%	0%	0%	0%	2%	100%
中国	174	9	68	6	130	157	139	49	223	955
	18%	1%	7%	1%	14%	17%	15%	5%	24%	100%
その他	162	50	54	4	60	64	43	27	435	899
	17%	5%	6%	0%	6%	7%	4%	3%	45%	100%

●2016年

上段：人数 下段：割合	永住者	定住者	日本人の配偶者等	永住者の配偶者等	家族滞在	技術・人文知識・国際業務	技能実習	留学	その他	合計
全体	1,623	504	213	84	237	188	553	62	665	4,129
	39%	12%	5%	2%	6%	5%	13%	2%	16%	100%
フィリピン	620	273	68	42	3	17	50	-	16	1,089
	57%	25%	6%	4%	0%	2%	5%	0%	1%	100%
ベトナム	32	17	7	9	50	63	190	4	35	407
	8%	4%	2%	2%	12%	15%	47%	1%	9%	100%
ブラジル	522	150	33	12	3	-	-	-	2	722
	72%	21%	5%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
中国	273	29	56	13	109	60	214	18	174	946
	29%	3%	6%	1%	12%	6%	23%	2%	18%	100%
その他	176	35	49	8	72	48	99	40	438	965
	18%	4%	5%	1%	7%	5%	10%	4%	45%	100%

●2021年

上段：人数 下段：割合	永住者	定住者	日本人の配偶者等	永住者の配偶者等	家族滞在	技術・人文知識・国際業務	技能実習	留学	その他	合計
全体	1,857	680	198	116	323	498	675	32	582	4,961
	37%	14%	4%	2%	7%	10%	14%	1%	12%	100%
フィリピン	638	355	62	53	7	27	67	-	8	1,217
	52%	29%	5%	4%	1%	2%	6%	0%	1%	100%
ベトナム	67	19	14	12	144	285	356	1	100	998
	7%	2%	1%	1%	14%	29%	36%	0%	10%	100%
ブラジル	527	214	40	20	-	-	-	-	3	804
	66%	27%	5%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
中国	385	31	33	17	85	89	105	17	118	880
	44%	4%	4%	2%	10%	10%	12%	2%	13%	100%
その他	240	61	49	14	87	97	147	14	353	1,062
	23%	6%	5%	1%	8%	9%	14%	1%	33%	100%

③ 同居する子ども

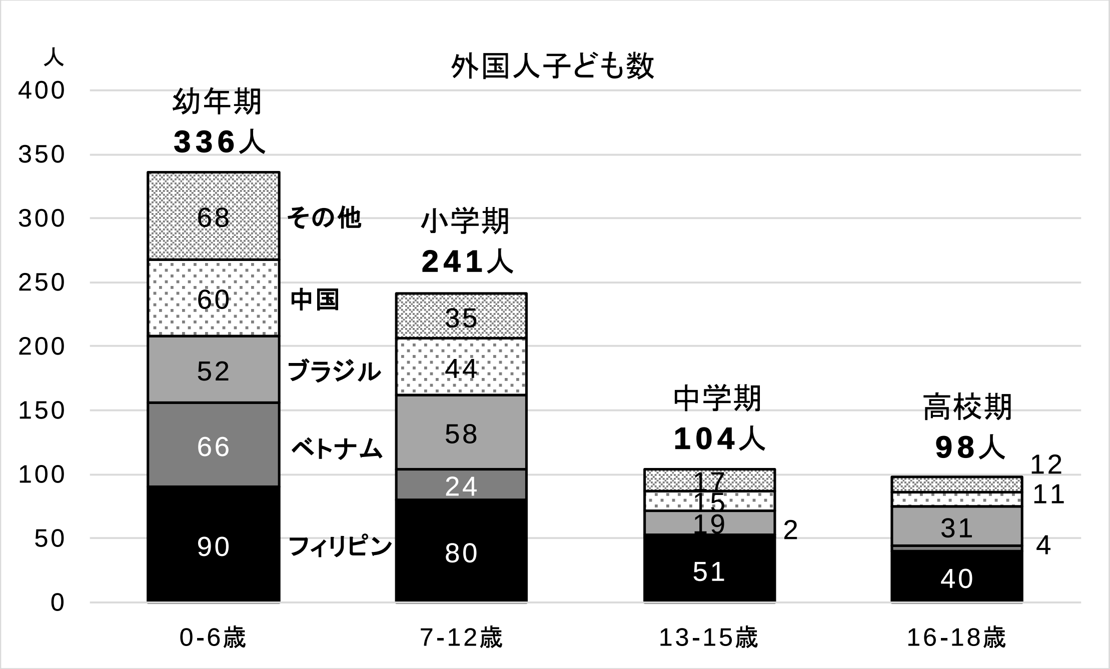
【図9:わかること・いえること】

◇ 18 歳以下の外国人市民の子どもは、学齢期がより低い年代層の子どもが多い傾向にある（幼年期 336 人→小学期 241 人→中学期 104 人→高校期 98 人）。

◇ フィリピン人の子どもは、すべての学齢期で最多で、特に中学期、高校期の半分近くを占めている。

◇ ベトナム人の子どもは、幼年期と小学期で殆どを占めている。

図9:学齢期別・国籍別 外国人市民の子どもの状況　(2021 年 10 月 1 日現在、刈谷市調べ)



④ 市立学校に通う児童・生徒数

【図9、表5・表6:わかること・いえること】

◇ 9 年前と比べて、外国人児童・生徒は 144 人増え、375 人となっている。

◇ フィリピン人、ベトナム人、その他がその増加に寄与している。

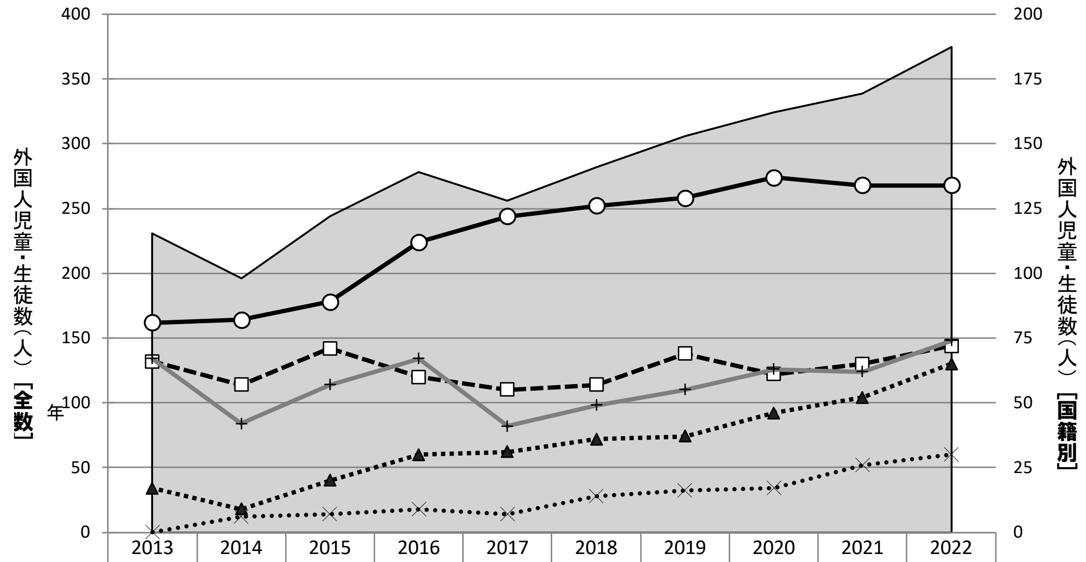
◇ 2022 年の上位 3 位は、フィリピン人が 134 人、ブラジル人 72 人、中国人 65 人。

◇ 小学校では、かりがね小学校が 70 人と最多で、次いで東刈谷小学校 48 人、朝日小学校 35 人である。中学校では、雁が音中学校 55 人、朝日中学校 29 人が多い。

◇ 語学指導が必要な児童・生徒数は 229 人で、全体の 52％である。

◇ フィリピン人、ブラジル人、ペルー人、その他は比較的語学指導の必要度が高い。

図10：外国人児童・生徒数の推移　　（各年５月１日現在、刈谷市調べ）



年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
全数	231	196	244	278	256	282	306	324	339	375
フィリピン	81	82	89	112	122	126	129	137	134	134
ブラジル	66	57	71	60	55	57	69	61	65	72
中国	17	9	20	30	31	36	37	46	52	65
ベトナム	0	6	7	9	7	14	16	17	26	30
その他	67	42	57	67	41	49	55	63	62	74

表5：学校別の外国人児童・生徒数

小学校名	在籍	語学必要	中学校名	在籍	語学必要
富士北小	9	3	富士松中	10	5
富士東小	11	7			
富士松南小	23	13	**雁が音中**	**55**	**29**
かりがね小	**70**	**32**			
平成小	14	9			
日高小	8	2	刈谷東中	10	2
小高原小	15	5			
亀城小	11	5	刈谷南中	10	2
住吉小	19	0			
衣浦小	11	5			
双葉小	7	3	依佐美中	17	15
小垣江小	26	18			
小垣江東小	4	3			
東刈谷小	**48**	**25**	**朝日中**	**29**	**21**
朝日小	**35**	**25**			
小学校計	**311**	**155**	**中学校計**	**131**	**74**
小・中学校合計（在籍→語学必要）				**442**	**229**

表6：国籍別語学指導の必要性

国籍	合計	学校内訳		語学必要
		小学	中学	
フィリピン	134	81	53	105
ブラジル	72	58	14	41
中国	65	50	15	14
ベトナム	30	28	2	10
ペルー	12	8	4	8
日本	92	55	37	30
その他	37	31	6	21
計	442	311	131	229

※その他…インドネシア、バングラデシュ、スリランカ、アルゼンチン、タンザニア、イギリス、日本

⑤ 生活相談の状況

【表7・図11：わかること・いえること】

◇ 2021 年度は約 7,000 件の生活相談があった。

◇ 相談種別では、住民登録 20%、税金 19%、福祉 15%で約半数を占めている。

◇ 対応言語は、タガログ語、ポルトガル語が多く、中国語はその半数以下である。

◇ 経年変化は、2009 年度から 2016 年度は増加したが、2021 年度は横ばいである。

◇ 2021 年度は、過年度に比べコロナ禍の影響から、医療、労働の件数が増えている。

表7：本市の外国人生活相談の種別件数の推移　（刈谷市調べ）

種別	相談内容	2009年度	2013年度	2016年度	2021年度	2021年度対応言語別		
						タガログ語	ポルトガル語	中国語
住民登録	住民票、印鑑証明、戸籍謄本、ビザ	700	1,260	1,626	1,502	635	582	285
税金	納税、所得証明申請等	1,271	1,608	1,712	1,373	508	646	219
福祉	保育園、児童手当、障害福祉、高齢福祉	749	723	1,075	1,075	493	486	96
保険年金	保険加入・喪失、年金	559	844	1,027	919	325	384	210
住居	市営住宅、アパート探し、ゴミ関係	448	533	646	749	286	344	119
医療	病院、予防接種関係、子ども医療費	196	332	220	**698**	228	325	145
労働	労働相談、職探し	194	247	201	**349**	244	11	94
教育	学校・塾・幼稚園	136	367	335	179	73	63	43
離婚結婚	男女問題等	39	93	83	105	50	30	25
その他	近隣トラブル、翻訳、その他生活相談	1,142	1,398	899	494	243	90	161
合　計		4,292	6,007	7,824	6,949	2,842	2,871	1,236

※ポルトガル語にはスペイン語を含む。

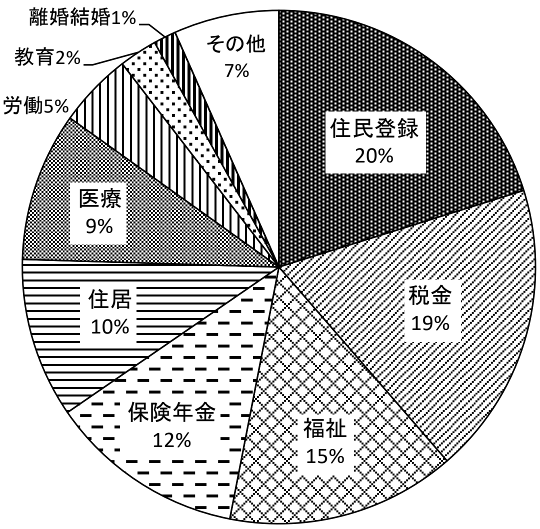



図11：本市の外国人生活相談の種別件数の割合